大正八年二月廿八日　金曜日　第七十七號

Noticias do Brazil

28 de Fevereiro de 1919 No. 77

伯剌西爾時報

NOTICIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Conselheiro Furtado No. 89
Caixa Postal H
Tele. Central, 2778
S. Paulo, Brazil
Proprietario e editor Seisaku Kuroishi

Assignaturas
por Anno ——— 10$000
„ Semestre ——— 5$500
„ Mez ——— 1$000
„ Semana ——— $800

在留同胞自覺の急務（下）

猶ほ一つ自覺の急務なるは、運命を悟る事である、運命とは一種不可思議なものにて、到底人智にては解し得ざるが如く思惟する者も無いではないが、事實必ずしも然らずである、奈破崙や、ミラボーは、人間として世の中に爲し得ざるものなしと言ひしは、少しく誇大に失する慨ひなきにあらざるも、世の中の八九歩通りは、人力にて支配し得ることが事實なれば、運命を知り、運命を捉ふることも亦能力才幹の奈何に依つては、敢て困難とすべきでないのである。

平沼博士の言を籍りて云へば、運命は恰度鬼火の樣なものである、鬼火とは俗に人魂と云ふものであつて草木も眠る丑三の頃墓場の邊りで、青い火魂の飛のが其れである、然らば此の鬼火即ち火魂なるものゝ正體は何であるかに就き、學者の說く所に據れば、之は元素の一つたる燐と云ふものである、不思議なことには此の燐である鬼火は、恰も生物の如く、人間が見て驚いて一歩逃ぐれば彼れ亦一歩追懸ける、又た之を捉へんと欲して一歩進めば、彼れ亦一歩退くと云ふ具合にて、曾て何人も之を捉へたことのあるを聞かないのである。

然らば此の鬼火なるものは、全く不思議なものにて絕對に捉へ得ざる者かと云ふに必ずしもさうではない其の本體が既に燐である以上は、燐と化合し得る物體を持ち行かば、燐は必ず化合して一種の物體と變ずるので、之を捉ふることは至つて容易なことである、運命も之と恰度同樣に、才子才に委せて徒らに運命を追ひ廻はすも、我れ一歩進めば、彼れ亦一歩退き、隱見出沒更に所在を明かにせざるも、若し我れにして初めより運命の正體を究め、更に彼と化合する所の能力才幹を以て臨めば、容易に彼れを捉へて我が藥籠中のものと爲すことが出來るのである。

之に就て最も好い證據は、現在伯國に於ける我が同胞中の成功者である、成功者は何も初めよりお互ひに斯くすべしと申合せたことでもあるまいが、其の爲す所を見れば殆ど符節を合したるが如く、急がず、焦らず、飽まで落ちついて、不平を言はず、泣事を語らず、徐かに準備を凝し、經驗を積み、數年一日の如く鼻唄を歌ひつゝ愉快に努力した人々である、して見れば運命を捉へて成功すると云ふことは、何も左まで六つかしいことではなく、尋常普通の事柄を自己の才幹能力に應じて、絕へず徐かに努力すれば可いと云ふことに歸着するのである。

尤も廣い世の中には、僥倖に據つて一攫千金の奇利を博し、之を土臺として頓々拍子に成金となつた人も無いではないが、兎角此の種の人は一たび蹉跌すると奈落の底に墜つるを免かれないもので、是等は眞の運命を開拓したものとは云ひ得ないのである、矢張り眞の運命は、初めに易きを避けて難に就き、額に汗して一歩〳〵土地を拓くが如く、努力したものでなければ之を捉ふる資格が無いものである。

殊に在伯同胞多數の如く、農業に從事するものに於ては、徹頭徹尾努力に據らざれば運命を開くことが出來ないものであるから、決して僥倖を恃まず、速成を願はず、農業は是れ我が天職なりと自覺して、忠實に其の業に從事し、以て大器晚成を期すべきである。

我が農民に知らせたき獨逸氣質（續き）

俘虜を通じて觀たる獨逸氣質

陸軍中將　堀内文次郎

◆撓まざる勤勉力と巧妙なる廢物利用策

獨逸人は前述の如く、極めて節儉であると同時に頗る恪勤勉勵である或者は建築設計の製圖に熱中し、或者は著作に沒頭するといふ風に、俘虜中一人として漫然無爲に日を暮すものはない。殊に一般に讀書の趣味に富み、寸暇だにあれば、卷を釋いて倦むを知らずと云ふ有樣で、中には自費を以て時間外の默燈を願ひ出で只管讀書三昧に耽つて居る者もある。それも娛樂的稗史小說の類でなく、何れも語學に關するものか、若しくは專門の學術上の書籍であつて其研究心の盛んなることは、尙に敬服に堪へないのである。更に驚くべきは廢物利用の一事であつて、今其の一例を擧ぐれば、牛や豚の調理をなすに當り、普通日本人は棄てゝ顧みない骨や內臟の如きも、或はスープを造り、或は腸詰を拵へるといふ風であるから、二頭の牛豚も彼等は三頭分に役立たせるといふ結果を生ずるのである。又骨て馬鈴薯の皮を棄てゝ了ふのは甚だ不利益であるとして、之を以て豚を飼養したいと申出たといふこともある。近頃又新聞紙の報する處に據れば『シーメンス』の社長が習志野の俘虜慰問の爲めに雛卵百個を贈つた、處が彼等は其の七十個を賣つて巢鳥二羽を購ひ、それで他の三十個を孵化して、各自の殘飯を以て其の雛を飼つて居るそうである。これは勤儉とか廢物利用といふ樣な事には直接關係がないかも知れぬが、彼等の經濟的道口の如何に非凡であるかを察す可き好箇の資料であると思ふ。而して吾人が敵として聊か苦手なりと感せらるゝのは儉なること、規律節制を守ること、實にこの經濟思想の發達であることを牢記せねばならぬ。或學者が彼等を貶して、獨逸人ほど勘定高い國民はいない。勤勉であるけれども、一方には儉約を通り越して、極端なる吝嗇に陷つて居ると云つたのは、思ふに獨逸人の利用厚生に明敏なる半面を觀たのであらう。乍併縱令其れが多少の弊害を伴ふとも、斯くの如きは其能率の偉大を來し、能く富强を致す所以であることを思はゞ、以て我が鑑となすべきである。

◆從順にして而かも自制力强し

尙ほまた彼等は極めて服從性に富んで居ることを見逃してはならぬ、彼等は概して能く規律を守り、命令に從順である、此の服從心が强情なる氣質を調和して、能くその弊に陷らぬとすれば、個中に亦一大教訓の存することを思ふのである。現代の日本人は、上を凌ぐといふことを以て剛毅であると誤解して居りはせんか。これには種々の原因もあるであらうけれども、近時政爭の激烈なるために、互に排陷中傷至らざるなく、徒らに漫罵を逞うするの結果、敬虔の美風は滔々として地を掃ひ、知らざる間に、服從性を涸渴するに至らしめたのではなからうか、古人も『勇而無禮則亂』と謂つて居る如く、近時我が國民思想の、動もすれば反抗的となり、亂に陷るの傾向があるのは、轉た深憂に堪へない。服從は則ち禮の本であつて、强情なる獨逸人に此の服從心の有るのは大に學ぶべきである。

又俘虜收容所に於ては、當時起床消燈朝夕の點呼、食事入浴等、取締上必要なる制限をなすの外、一切起居の自由を許してあつたので、安逸放縱に流れ易い譯であるが、彼等は自制の精神に富み、自ら一定の日課を作つて、萬事を規律正しくやつて居る。就中體育を重んじて、盛んに運動を行ふことも亦感すべきである之れ要するに、獨逸氣質にも一長一短あるを免れないけれども、內の勤儉なること、規律節制を守ること、而かも極度に剛毅にして服從心强く、而かも極度に忍耐に堪へ得る事、萬事を宜對を離れての絕大は何であらう。何人も生命肯定の人生觀を有つてゐることは既に私は申しました。生命の肯定とは私の存在の肯定であります。私の實在は何人も否定は出來ぬ總ゆるものを否定し盡しても此の私の實在は否定し得ないのであります之を私は絕對と申し絕對が人生である。

凡そ如何なる職業でも、一度これに從事した以上は、最も勤勉を重ねて以て最後の勝利を求めねばならぬのである。その內でも取りわけ農業にこれ等の素質を必要とするのである。元來農業はその勞苦の代償としては餘りに利益の薄きものである。今日でこそ一般物價騰貴の影響を受けて農產物の價格も非常なる高騰を示し居るが、而かもこれ等の利益を享樂す可き農民は、大地主か然らずんば中以上の農家丈けで、その最大多數は依然として苦しき境遇にあるであらう。是に於てか吾人はこれ等多數の農民諸君に向つて、是非共獨逸氣質の研究を勸むると共に彼等俘虜の爲す所を參考として、將來充分なる活躍をして貰ひ度いと思ふ。（完）

我觀哲理

成瀨九皐

Aさん『矛盾は命也』に就いての御高評は敢て私は方りませんが、私の一元論據を示せとの仰せは愼んでお受け致します。

宇宙は何であるか人生は何であるかは餘りに討議し盡された問題でありやは之を基とする人間の幻影に過ぎないのであります。即ち宇宙は人間の主觀の內に存するのであつて之を絕對なる私の存在を肯定して後の物我對照の客觀によつて說明せうとすればこそ種々と支障を來すのであります。私の實在を表顯するものは生存慾の活動であり生活であります。此の私の實在は原因でもなければ結果でもない。原因と結果の楔合であり溶和であり、其の超越である。御說明にしては上乘でありませう。此の無限なる觀念は有限に相對的に考へて得たものであらねばならぬ。既に然るとせば

兼限（兼限大＝最大限＝比較大）有限
兼限（兼限小＝最小限＝比較小）

と何の撰ぶ所がありませう。此の相對を離れての絕大は何であらう。何人も生命肯定の人生觀を有つてゐることは既に私は申しました。生命の肯定とは私の存在の肯定であります。私の實在は何人も否定は出來ぬ總ゆるものを否定し盡しても此の私の實在は否定し得ないのであります之を私は絕對と申し絕對が人生である。

送金者諸君へ

屢々社告を以て御注意申上置候も送金法不完全の爲め左の價格表記は本社に於ても處置に困り居り候間御心當りの方は至急住所氏名、及び書留番號御通知下され度候也

	局名	發送日付
金額		
五ミル	バウルー	八、三一
五ミル五百	コンキスタ	一〇、一九
十五ミル	マカウーバス	九、二五
五ミル五百	タクワリチンガ	月不明、五
十五ミル	セルケーロセザル	二、二六
十ミル	イガラスー	十月
九ミル	パレットス	一、三

送金者マツダスチチ

送金者 カンヂッド、ブェノ
ポルト、ジョオンアル
フレッド　七、四
十ミル　ミランダ　十二月末
十ミル　オウリーニョ　十二月二十八日
十ミル　マカウーバス　十二月卅日

以上

伯剌西爾時報社

ては說明出來ぬと私は思ひます。佛家の說明なぞは私は聞きたくない。實在の表題は二途に分るゝこと即ち矛盾相擊の活動に就ては既に述べました通りであります。ラテン語の諺に

Omnia Vincit Amor.
勞働は總てを征す
愛情は總てを征す

と云ふ反對の一對と云ふ可きものがあります。私の生命表題二途論の說明に假りるに適當と思ひます。私はカントやヘイゲルやベルグソンやオイツケンや將たまた老子や陽明や平田を擔ぎ出さなくとも自己の此の見解で充分了解は出來ると思ひます。而して人間の生存慾なるものが如何に貴重なるかも了解でき、之を罪惡視した在來の思想に對して弓を引くの勇氣も出來るのであります。

社會問題と云ひ國家問題と云ひ、此の見地から私は立論推究するのであります。

元來私は多くの青年諸君の內には書籍に讀まれ書籍を讀まぬ人も數多いのを是認し憤慨します。之は自己の中心思想の建設が出來てゐないからであらうと思ひます。そして物の觀方が餘りに單的に流れる。甲論に接すれば之に共鳴し乙論に接すれば之に傾聽する。朝想暮改とでも云ふ新熟語を必要とする有樣である。之を枉正するには私は先づ各自が自ら人生宇宙に對する考究を進め自己の見解を見出し得る樣に勉めるにあると信じます。Aさん、私は貴方の如き眞面目な知己を得たのを滿足に思ひます。共と私の生命表顯二途論と絕對我一元論とを明かに區別して載きたいと思ふ。蓋し玆に云ふ絕對我とは心理學者の所謂我とは同一でなく其の何なるやは既述の點でおわかりのことゝ思ふのであります。トルストイの『天を仰いで居よ』と云つたのも表顯の靜的方面を以て動的方面を溶和しやうとの言であると私は解します。何故に死を求むる人のあるかとの答としては『生きるが故に生きんと欲し生きんと欲するが故に死をも求む』と申し上げるに止めます。

讀者と記者

●郵便紛失に就て

記者様、郵便物の件に關し近頃重ねて注意して下さいまして難有う御座います、所が其の後も尚ほ引續き新聞なぞが紛失致しまして困りますと、うしたら宜いでせうか御相談もうしあげます（愛郵便生）

未だ書いてから日が經ちませんが爲め一般に知れないのかもしれません、ですから今少し我慢しては如何ですか、猶ほ其の上で和目がなかつたら侵害者の原籍及び姓名を知らせてください（記者）

イタコロミー殖民地觀

（三）　一世

殖民地へ着きまして事務所の四邊に植え付けられた稻と棉花との美事な出來榮を見ました其の翌日上塚氏の案内で神戸別訪問を兼ね地區視察に出掛けました。

焼き拂はれ伐り倒された處女林の跡には稻は青々と繁茂し棉花は芙蓉に似て優かに此處は誰れの所有地、彼處は某の作物と一々委しい説明を聽いて馬を進むれば進める程稻は倍々太く高く、棉花は益々兩側の枝を伸ばして美しい姿を見せてゐます、小學校敷地として取り殘された森に入ればペリキートの群は大木の枝より枝へと喧しく這ひ廻はり、名も知れぬ小鳥の奇聲に驚かされて駒の歩むに任せて行くこと數町再び眼前に展開せる青海原はセソン、ゴンザカと稱する別地、此處も稻と棉花とにて敷きつめられゐて其の壯觀は都人の目を驚かすばかりであります。イタコロミー殖民地の本年の主作物は米と綿でありますけれども豆や玉蜀黍やマモーナの出來榮も好良で、殖民者の孰れもが豊澤な收穫を得らるゝことを豫想して元氣當るべからずであります、殊に一驚を喫しましたは坂本留四郎氏方の胡瓜で、播き放にして何等の手入をせなかつたにも拘ず一個三キロ半、長一尺一寸五分周圍一尺七寸のものが稻の中にゴロ〳〵してゐますのと、粟崎氏方の十葵は長さ三尺、續雪太郎氏方の玉葱は一箇一キロ乃至七十五グラム、井上氏方の馬鈴薯は北米のポテトー以上であります、それに一個十キロの薩摩芋、其他トマーテ、茄子、落花生、水瓜等何れも美しい程の大出來であります、更らに驚くべきは坂本氏方のフェジョンで一株に九十以上九十五莢を着けてゐて一莢七ケ乃至八個を含有してゐたのであります、餘り美事でありますから我は重いのを我慢して本社へ持ち歸りまして論より證據とばかりに來訪の人々にイタコロミー殖民地産の胡瓜や玉葱、十六莢や馬鈴薯を實撿に供しました。

要するはイタコロミー殖民地の地味優良なるは云ふ迄もなく入殖者の努力と經營者の指導宜しきとによりかくも好成績を擧げたのであります。（完）

衞生欄

高岡醫師

健康の徵と日々の注意點（下）

前回は素人風に健康の徵と消化、排泄に就て尋常である可き狀態を述べた、今度は其續きで細い事を拔きにして大體を述べる。

呼吸　人間は有形の食物のみでなく無形の空氣を吸ひ込んで生活の大事な資料に供してゐる、食物を有効に使用すると云ふのは薪炭を竈中に投じたと同樣熱力にして活用するにある、それには風通りが充分でないと良く燃へぬと同樣の關係を持つてゐるのは呼吸である、吸ふ息、吐き出す處のもの何れも生活上重大な意義を有してゐる、けれども其動作は殆んど無意識に行はれてゐるので殆んど人々に注意されてゐない。

呼吸の樣式　男は腹式が主で女は胸式と云つて胸の運動で主として呼吸してゐる、但しこれは分量上の問題で普通男女共に兩式混合の狀態で行はれてゐる、こんなのは尋常で良いが、呼吸は深くて大きい方が良い、健康の一徵として小鼻を觀察するのは此意味である、そして淺い程、數の多い程不良である、平生呼吸を不良にする條件の第一は身體の姿勢で第二は精神狀態である、常に天を望むものは心高しと云つて上向程宜敷い、起坐共に身體眞直に、胸部は出來る丈け張り出して擴くすると、心甚しく動搖すること多ければ呼吸不正になり短命の基とある、宜しく心胸を快活にして樂を持つ可きである。

古から健康の秘訣としてゐるものゝ何れを見るも調息法で、つまり呼吸を正しくする方法に過ぎぬ佛法の坐禪がそれ、白隱禪師の内觀法もそれである、近くはそれ等を通俗化した二木式呼吸法、藤田式養氣法などが出來て世間に持て囃されてゐる、私は姿勢を正しくする事は若い人には特に肝要な事柄で、肺結核の豫防上の一要件である事丈けを述べて强ひて上の呼吸法を御勸め爲ない、それは身心の狀態が普通であれば自然的良好な呼吸が營まれる故である。

循環　血液の主な成分は鐵で野菜から採つてゐる、循環の良否はやがて血色として顯れ、皮膚の温感として出て來る、平生皮膚に觸れて温かい程健康の徵、但し頭寒足熱と云つて頭部は冷たく下部は熱したる程長命の因と古から傳へられてゐる、若し眼瞼を飜轉して常人に比し著しく蒼白だつたら循環す可き血涙の減少したるの證據、速に原因を探究して治療を乞ふの必要がある。

睡眠　は身體内に疲勞素と云ふ化學的のものが溜まつた結果で眠つてゐる間にそれらのものが其所から呼收され排泄される、藥で眠らしたのは此疲勞素の排除が充分に行はれぬので割合に體力を恢復せぬのみか却て不快感を貼す事が多い、睡眠の時間は大人なら普通七時間としてあるけれども之れは寧ろ熟睡の程度に關し得ないのは胃腸の故障に原因することが多い。

精神作用　病は氣からとも凡ての場合に云へぬけれども、日常の精神狀態が大いに健康に影響する、例へば憂鬱、苦悶、怨恨、慚愧、憤慨なとは著しく體力を消耗させる、從つて身體全體の不調和を生じ病魔の侵入する間隙を與へる、之れに反し愉快の感覺は消化器或は筋肉などの機能を催進する、長壽者の凡てが樂天家であることを觀察してもこれらの關係が了解されること、信ずる。

要するにこれ迄述べた事柄は僅少しく看過す可きものでなく、日々の注意をそれらの上に注いで行かねばならぬもの、それ故ザット項目を掲げた次第である。（終り）

●海軍將官の進級及び轉補

◆人物本位と云ふ中にも薩派の勢力挽回の徵を示す◆

十二月一日附にて左の通り海軍の定期進級轉補ありたり

▲親補諸官

海軍大將　八代　六郎
補軍事參議官　海軍中將　財部　彪
補佐世保鎮守府司令長官　横須賀鎮守府參謀長同　加藤　寛治
海軍中將　黑井悌次郎　海軍水雷學校長　同　齋藤　半六
補第三艦隊司令長官　海軍中將　野間口兼雄　海軍々令部出仕　同　松村　純一
補舞鶴鎮守府司令長官　吳鎮守府參謀長　同　齋藤七五郎　技術本部第二部長　同　河田　勝治
海軍々令部出仕　同　竹内　重利　待命　同九津見雅雄　同　丸橋彦三郎
航空機試驗所長事務取扱同河田勝治　少將　中里　重次　岡田三善　大山鷹之介

▲將官進級

海軍少將　森越　太郎　任海軍々令部參謀兼臨時海軍建築部
同　木村　剛　山中　柴吉　待命　同秋澤芳馬　同白石直介
同　小笠原長生　機關中將伊達只吉
同　田所　廣海　横須賀鎮守府機關長機關少將大橋省
同　山路　一善　森山慶三郎　待命　主計總監　相良　澄位
同　山崎　位　横須賀海軍經理部長兼同主計部長
任海軍中將（各通）　海軍機關少將　木佐本幸輔　待命　造船總監　淺岡　滿俊
任海軍機關中將　海軍造船總監　淺岡　滿俊　技術本部第四部長　同　山田　佐久
陞叙高等官一等　海軍大佐丸橋彦三郎　岡田三善　齋藤七五郎　横須賀工廠造船部長　同　大久保立
海軍大佐丸橋彦三郎　岡田三善　齋藤七五郎　豫備役　少將平岡貞一　同松岡修藏
大山鷹之介　中川繁丑　同岡野富士松　同小山田仲之丞
竹内重利　中里重次　秋澤芳馬　同堀輝房　同金子滿喜　同本田親民
白石直介　同下平英太郎　同久保來復
任海軍少將（各通）　任機關少將　機關大佐　宮川　邦基　任主計總監　主計大監　山崎　位　造船大監　大久保　立
海軍將官會議議員　中將有馬　良橘　海軍將官會議議員　同　東郷吉太郎　同　松村　龍雄　同　山口九十郎　同　鈴木貫太郎　同　森越　太郎　同　小笠原長生　同　田所　廣海
待命　海軍兵學校長　待命　同　山崎　位　同　松村　龍雄　同　山口九十郎　同　鈴木貫太郎　同　森越　太郎　同　小笠原長生　同　田所　廣海
海軍將官會議議員　同　森越　太郎　同　小笠原長生　同　田所　廣海
待命　同　少將　同　田所　廣海

南樹

齒がうくとちよと開きたるたをやめの齒並美し白く美し。

うたひめのうたひつかれし元口の艶なる震のあなにくゝし。

たをやめほの笑める時尙悲しまざゝと見る暗き眼の色。

美利具比殖民地

◉當社は水質良好、氣候溫和なる珈琲其の他の全作物に適する肥沃地にしてビリグヒ、アラサツーバの二商業地をさし控へたる絶好殖民地を廉價且つ拂込方法を最も容易にして日本人諸君と提供す

◉當社は千三百家族の各國土地購入者を有し其の中三百家族の現住日本人あり創設以來日尙淺きにも不拘道路四通八達し且つ兒童教育機關の設備等あり益々同胞の永住的基礎を鞏固にす

◉當社は當地入殖者に限りパウルウ、ビリグヒ間の無賃乘車券を交付す

御用の向きは左記宛御照會ありたし

代理人　宮崎八郎

The San Paulo Land, Lumber & Colonization Co.
(Comp. de Terras, Madeiras e Colonizaçio de S. Paulo)
Est. Birigüy. Linha Bauru-Itapura (antiga Noroeste)

在東京伯國公使館員　大武和三郎氏著

●葡和辭書

寸珍版美本六百四十四頁

實價　七ミル五百レース

郵税　五百レース

右伯語研究會の依托に據り實價を以て販賣す御入用の方は代金に郵税を添へ申込あれ、發送は着金順と定む

◎イグアペ植民地はイグアペ植民地本部
◎リベイロン附近はリベイロン時報支社

Caixa Postal, 290 Ribeirão Preto.

へ便宜申込ありたし

取次所　伯刺西爾時報社營業部

Noticias do Brazil
Caixa Postal, H
São Paulo

◆日本近信

●開院式の日

大禮服の輝き
新大臣の機嫌顔
歳費受取の大賑ひ

平和來の重大問題を控へた四十一議會は十二月二十七日開會された、式場でも各黨控室でも開院式當日はさながら春風台蕩である、式場へ眞先に着席したのは林伯であつた上院側で眼立つたのは赤い支那の綬を帶びた德川頼倫侯、無帽のため負傷したのでもあるまいが禿頭に大きな膏藥を貼つた高木兼寛男山羊の樣な田尻市長、山内侯、新勅選前自青嵐永田秀次郎氏、衆議院側では眞黑い燕尾服の群の中でピカピカ大禮服の胸を光らせる高橋内閣翰長、例の如く青い逞羅國の綬を帶びた政尾博士等である外交官席にはモーリス大使始め五六の外交官が肅然として控へてゐた、式後の政友會控室は

◆新大臣連の金ピカ月旦で

他愛もなく賑つた、中橋文相は金ピカの胸をポンと叩いて平民大臣でも之だけは義務ぢやから仕方がないよ何光る？光る筈さ、二三度着た新調だもの、だが物は好く聞いてからすべきものだね、僕は勅任時代の金ピカを持つてゐたが親任官と造ふんだと思つて人に呉れて仕舞つたんだ、所が同じもので好いとの事でえらい損をしたよアハ、、、』野田氏はどうして立派だ〳〵と賞められ罪のない笑顔をし乍ら出張つた臍の邊を撫でゝ窮屈だ、切なかたい』謹嚴な床次さんは古い大禮服を着てズツと後の方に立つてゐる、式後例により歳費渡場をのぞくと丁度此頃の電車に乘る人の樣にワツショ〳〵と押し合ひへし合ひ金千圓也の證書を受取るのではない。

●李王世嗣殿下の御婚儀は正式に御發表の上

一月廿一日御擧式遊され
御渡鮮は四五月の交

梨本宮方子女王殿下と李王世嗣垠殿下との御婚儀は已に皇室典範增補制定も濟みたるを以て十二月一日正式に李王家より梨本宮家に對し奉り女王殿下

◇御歸嫁の　御申込ある由なるが此の事終了次第一兩日中兩家より宮内大臣を經て御歸嫁御聽許の件畏き邊に奏請し其の御聽許を待ちて愈々御婚儀行はるゝ次第なるが其御日取は大正八年一月廿一日の佳辰を卜し御舉行の御豫定にて御式場は霞ヶ關離宮を之れに充て御式は

◇純日本式を　以て行はるゝ由申し候寒威最も猛烈を極むる時なれば多分陽春四月の花笑ふ好季節を待ち渡らせらるべしと

●遊學以來の深緣

特使に隨行の三浦博士
佛の醫學を日本に紹介した功勞者

候西園寺侯の隨行として本邦醫界の泰斗たる東大醫科大學教授三浦謹之助博士が渡佛の事に決定したるにつき三浦内科の某氏は次の如く語れり

◆學界の誇り

佛人も驚く程の語學力

博士は臨床大家として故青山博士と併稱せられ先帝にも奉仕した事は人の知る通りであるが博士が世界的學者として禁譽を歐米の學界に馳せて居る、學界及神經系統に關する研究者として、又西園寺侯の隨員として渡佛せらるゝ事は西侯の爲ばかりでなく我學界の誇りである、博士は英佛獨の語を能くし就中佛獨の語學力は書く事でも話す事でも其本國の人さへ驚かす程である、又佛國とは明治二十二年の遊學以來の深緣があつて有名なるシャルコ博士の高弟であるばかりでなく獨逸醫學全盛の今日佛國の醫學を我國に紹介した大功勞者で從つて佛國を知る事に於て我が醫界で博士の右に出づるものはない此意味からいつても博士の渡佛は最も其の人を得たといつて宜しい。

●帝室財産

一部公表せらる

帝室の財産は宮内省に於て非公式にも公式にも絶對に公開せざる事となり居れるが近時民間發行の年鑑總覽等に誤謬甚しきものを掲載しあり其の儘放任せば徒に世に誤謬を傳ふるの如く御料地の面積及び林野、立木等の數量及び價格を公表せり

土地	面積	一、五九六、〇〇〇町歩
	價格	八九、九三九、〇〇〇圓
立木	蓄積	五九八、〇〇〇、〇〇〇石
	價格	一三九、〇七三、〇〇〇圓

因に右の内立木の價格は近時材木暴騰し前記の二倍半に近きを以て現今に於ては約三億四千八百圓の價格あるべし

◆保守主義、軍國主義に

挑戰せる學者連

思想の自由を高唱して

△黎明會組織さる▽

運動の第一着手に講演會開催

今井嘉幸、新渡戸稻造、大庭景秋渡邊鐵藏、吉野作造、高橋誠一郎田中萃一郎、瀧田哲太郎、左右田喜一郎、内藤民治、中目尙義、古部百太郎、福田德三、姉崎正治、阿部秀助、麻生久、木村久一、三宅雄次郎、森戸辰男

の諸氏同志となり今回舊思想撲滅の旗幟を揭げて黎明會なる一團體を組織し社會的新運動を開始すべく左記の大綱を宣言して立つた

▲其の理由は　斯うである今次の世界大戰爭は專制主義、保守主義、軍國主義に對する自由主義、進歩主義平和主義の戰爭であつた思ふに今後に於ける全世界の諸國民は此の莫大なる犧牲の結果として此の光輝ある平和の回復に依つて初めて眞正なる文明的生活に入るの希望を有する者と謂つてよい然るに此の希望に充ちた戰後の講和時機は同時に亦種々なる反動的危險を包藏することを忘れてはならぬ故に此時に際し極力其の

▲危險を除去　し社會進展の機運を助長するの必要がある現に我國社會の一部に在つては却つて此の世界的大勢に逆行せんとする危險な頑冥なる國民生活の逆轉を來し世界の趨勢に對して見苦しき後れを取る事となり人類の向上進歩に對する我が

▲國民的貢獻　を減殺するの虞があれば此際前記の社會政策の熱心な研究者達が蹶起して講演會に新聞に雜誌に各自の意見を發表して彼等の蒙を啓かんと云ふのである右の趣旨に依り先づ運動の第一歩として一月二十五六日頃第一回講演會を開く筈である

黎明會大綱

一、日本の國本を學理的に闡明し世界人文の發達に於ける我國の使命を發揮すること

二、世界の大勢に逆行する危險なる頑冥思想を撲滅すること

三、戰後世界の新趨勢に順應して國民生活の安固充實を促進すること

●ばたく〳〵倒れる大阪の鐵成金

休戰後の鐵暴落の爲め
一擧に五百萬圓の
損失を被た者がある

戰亂の影響にて鐵成金を多く出せし大阪にては休戰後鐵暴落にて一擧に五百萬圓の損失を被りたる者あり其他にも鐵商の失敗する者續出する有樣にて却々物騷となり來れり

▼避け難き打擊

暴落は當然也

日本の今日の鐵相場その物が實際には意味を持つて居ない四百圓といふ相場があつても實際の取引の價格は之とは異つてゐるので我々には何の爲めの相場價格だか薩張り判らない第一今日では賣る方は

▼早く賣りたい　のだらうけれども買ふ方が安くなるのを見越して手控へてるといふ姿だ又米國で鐵の輸出が自由になつたと言つても果して實際に日本に來る容量が何程であるや又米本國の製産額は幾何であるか更に日本が鐵を要求する以上に歐洲諸國が鐵の

▲供給を米國に　求めたなら如何な結果になるかその邊の事情の皆目判明してない今日その結果を豫想する事は困難と言はなければならない併し米國の相場は多分噸當り六、七十圓を出でまいし夫が日本では四百圓許りだからその價格には

▲非常な差等が　ある之は彼の鐵を我れに呼ぶことになり從つて我相場の暴落する事は當然の過程であると思はれるこの現象は即ち我製鐵業に大打擊を與へる事を意味する我々の立場として日本の缺點弱處を發表するといふ事は大に愼まなければならない事であるが戰爭以來の

▲我製鐵業の跡　を觀ると製産高の激增の裏面に根本的から論すれば同業の退歩を語つてゐるものがある我國の實業家が單なる目先の利益の爲に堅實なる永久的基礎の確立を忘れてゐる現狀を悲しむ又之を一般工業界の上から考へても或は

▼相場の下落が　幸ひする事はあらうけれど若しそれが爲に遂に我製鐵業の進歩が阻害されたとしたならば又一朝事あるに際して再び今日の苦痛を繰り返さなければならないから永久の幸ひと見る事は出來ない

●下谷竹町の怪談

天井から怪しな水がぽたり〳〵
見物人が毎夜の如く押かける

福來博士調査す

下谷區竹町十二番地九號鏡製造業松浦孝次郎（五〇）方に化物が出ると云ふ評判が誰れからともなく四隣へ傳はつた其れが爲め物好きな連中は毎夜の如く

◆妖怪の正體　見屆けんと集まり來つて時には黑山を築く騷ぎに受持交番の巡査も其の儘に放任して置く譯にも行かぬ所から所轄上野署に此の由を報告して係官出張の上仔細に査考したが事の次第は斯うなのである去月初め頃同家で使用して居る塗料のニスが俄に腐敗した其れを同家の主人孝次郎が認めて曾て

◆ニスの腐敗　した例を聞いた事がないこりやア何か異變があるに違ひないと强く氣を病み作業も手に付かず居たりし所同月廿七日に至つて天井裏から夜となく晝となく勝手と云はず座敷と云はず屋内の隨所に水がポタリ〳〵と滴り始めた而も此の事が其の日限りでなく爾來幾回となく連續した之が爲め二三人居たも此の奇怪なる出來事に恐れを爲して孰れも逃げ出して了つた同時に主人は餘り費心した結果遂に發狂して取り止めもなき事を口走る所から家人等も持て餘して親族の人々を集め協議を遂げた上三女のチヨ（一〇）が目下醫科大學の皮膚科に入院して居れば件の

◆水を分析し　て貰ふこそ宜けれと水の滴るのを洗面器に受けて此れを大學に持參して分析方を依賴した所が大學では警察へ届けたが宜からうと應じなかつたので今度は福來博士の鑑定を乞うた博士は乞はるゝが儘に調査して見たが元より異變のあら筈がないので苦笑して引退つた化物の噂は此れ丈であるが同家の隣々まで取調べた上野署の係官は何等異狀を認めなかつたので多分鼠か猫かの小便でもあるだらうと語つて居た

◆同家の職工

農産食料品其の他一切　委托賣買

信用確實なる
左記の米人と共同

毎週相場表を發行す希望者は小生宛御申込ありたし
委細の點は御一報あれば御返事申上ます

Dubé & Bittencourt
事務所
Rua 15 de Novembro, 6-Sob.
聖市　笹原憲次
Caixa Postal 1427
Rua Conde Sarzedas, 48
S. Paulo

綺麗で、迅速で、丁寧で有名な
石村洋服洗濯所
電話セントラル參貳參四
Rua dos Lavapes No. 236

●土地
最良土地を最良條件の下に賣却す
希望の者には明細書（邦文）送付すべければ左記へ照會あれ
代理人　矢崎節夫
Villa Costina L. Mogyana
コスチーナ
土地殖民會社
Dr. Lalbieno da Costa Machado
R. Barão Itapetininga, 13A
S. Paulo

日本金兩替
●金銀貨多少に拘はず兩替可申上候

ブラジル語獨習
紙數三百十二頁　送料共六ミル
發行所　東京　秀英舍

葡語を知る人は大勢力なり將來の大發展を期するには本書に依てブラジル語を學ばざる可からず數年の間幾多の葡語研究書出版せしも未だ曾て本書の右に出る良書を見ず

大多數なり本書はブラジル語英語、日本語の三國會話に出來居り故に語の素養ある御方には殊に便なり

土佐鋸及大工道具類化粧品書籍類

◆各種種物

◆大根之部

平莖豐玉大根○改良丸尻宮重○改良宮重長大○練馬丸尻大根○同大長大○練馬秋マツリ大根○黃二十日大根○守口大根○聖護院大根○方領大根○晩生櫻島大根○以上一合二ミル五百宛

◆蕪之部

大王かぶら○結球豐玉白菜○白菜三河島菜○直隷白菜○白菜○天王寺かぶ○小松菜○千筋京菜○山東菜○朝鮮白菜○白基菜○紫のかぶ○近江かぶ○胡南かぶ○大長がぶ○時なしかぶ○黃金かぶ○大平莖ふだん草○日本ふだん草○たかな○結球山東菜○聖護院かぶ○大王白菜○ちりめん白菜○黃からしな○葉からしな○以上一合二ミル五百宛

◆瓜之部

○ちりめん南瓜○大菊座南瓜○大胡瓜○極早生黑川南瓜○西京南瓜○黑皮西瓜（スイクワ）まくわうり○黃金千成胡瓜○大へちま○西瓜あいすくりゐむ○まうんてんすーと○大丸ゆうがほ○大長ゆうがほ○大とうがん○以上一合二ミル五百

◆豆之部

○白八つ房いんげん○赤刀豆○赤蔓無いんげん○白蔓無いんげん○白刀豆○鈴成いんげん○お多福豆○大玉いんげん○お多福いんげん○以上一合二ミル五百

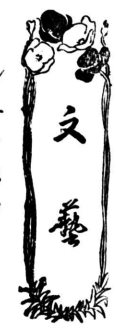
●貸本可仕候

ブラジル時報市内申込所
聖市コンデ　サルゼーダス街五一番
木藤商會
大澤醬油取次所　KITO SHOKAI
Caixa Postal 1466
R. C. Sarzedas 51
S. Paulo

新智識

◆電力刺戟棒

世の中が進歩すると色々な物が發明される、近頃北米はテキサス州でフオルト、ウオースと呼ぶ人は、牛馬使役用の電力刺戟棒と云ふものを發案したさうである、一體是れまでは馬や牛を動かすに、大きな鞭を用いたものであるが、鞭は見た所から慘酷氣で、非文明式だと云ふ所から、電氣仕掛で馬牛を動かすことが出來る樣になつた、そして其の電力刺戟棒は、普通のステツキの半分位ひの長さで、其の中に電池を仕掛け、把手には線輪が裝置されてゐる、棒の先端には短かい間隔を置いて二つの接觸點があり、其の棒を馬や牛の身體に充當ふ拍子に、先端に於て電流が相接觸し、夫れが刺戟を與へて如何なる鈍感な動物でも、靜としてゐられなくなるさうである、未だ併し之は北米だけで伯刺西爾へは輸入されないが、何れ其の中には來るだらうから、來たら一つ鈍感な馬に試して千里の名馬の働きを爲さしむるも面白からう。



シユラスコ

帆影

『まあ！いらつしやい……隨分御無沙汰ヲ』

持つて來たショップのコツプを卓に置いて、昇の手を握りながら、

『……でもないでせう、二つ前の日曜に來たんだもの』

『よく道を覺えてゐらしつたわヲ』

『戀しさに……さ』

『何がよ？』

『山の上のクリチバも夏は流石に暑いんで子……かうしたシドラの樹影が戀しい……』

『まあ、それつきり……？』

『でないことは勿論だが、そちら樣で御存じの筈だ』

『妾、知らないね』

『オツトその表情が人殺しだぜ』

『ホ、、、憎らしい……』

『ハ、、……けなして心で褒めてかね……まあ仲直りに一杯、プロウジツト！

『妾、有り難う』

『オヤ、ごあいさつだヲ……まあ受け給へな思ひ差しだせ後生になる』

コツプをカチンと合してグツト一と飲んだとき、帳場から女を呼ぶ聲、シ、リアはつと立つて

『烏渡ヲ』

を涼しいパツチリした大きな黑い目に云はせて行きかけると、

『ぢやおついでにシユラスコのお早いとこを願ひたいね、ついでにこれのお代り……』と

と昇はコツプを示す。

『どうしたの……馬鹿にお急ぎね』

『お腹が北山なんでね千松の辛抱が出來さうもない』

『ホ、、意地のきたない……』

笑で答へて昇は二本目の煙草に火をつけて、紫の烟をフウと吹いた。

別に何と云ふ取柄もない、小いぼけな庭で、無雜作にシドラや松がこんもりと茂いた樹影に、卓や椽臺が並べてあるだけだが、最初來た時からすつかり、昇の氣に入つてしまつて、日躍日の散歩の足は、このクルゼエロ麥酒會社の庭に向つて、女中のシ、リアともかうした親しい口をきくほどの仲になつて、ともすれば沈み勝ちになる旅鳥の、ひとりぼつちの淋しさをまぎらはす。

『隨分待つて？』

女が運んで來たシユラスコの皿を卓に置くと、肉の香しさと鉢の玉葱の香がプンと鼻をうつて、昇の空腹をたまらなくそゝる。

『待つ身にはなりたくない奴さ』

『まあ、それはどちらで云ふ言葉でせうね』

『さあ……』

心待上氣して桃色をした美しいシ、リアの顏を見上げて笑ひながら煙草を地になげて肉叉を握る。

『……日本にもシユラスコあつて？』

『うつ、こいつあ恐れ入谷の朝顏だね、憚りながら日本にはないものはないんだ』

『そら始まつたおきまりのお國自慢……』

『ぢやないんだ、全くさ……然しね手前共のは鷄肉でお座い、緣日夜店のカンテラの油煙、やきとり……それは東京名物の一つさ、薄暗い橋のたもと、名物やきとりと書れた行燈の光朧に、あほぐ團扇にパチ〳〵と跳ねる炭火、燒ける肉がプウンと來るとたまらない、但しその肉が正銘の鷄の肉だか、犬の肉だか……』

『あらいやだ……』

『ハ、、、、そこまでは保險はつけないが、とにかく殘された江戸の趣味の一つさ』

『こゝのシユラスコもリオグランデの名物よ、千八百九十四年の革命騷動の時まではこゝにはなかつたもんですつて、千八百九十四年と云へば私はまだ形もなかつたんだわ』

『お仰せの通り僕だつて、お袋のふところで乳首をいぢくつてゐて、他日萬里の海を渡つて、かうして君とガウツショの名物シユラスコを突き合はうなんて夢にも思やしなかつたんだ』

『オヤお話が理に落ちたわヲ……私のお父さんがよく話しますね、その年の一月、グメルシンド、サライバに率ゐられたフエデラリスタの軍勢が、バテルから市内へ入つた時市民は樂隊で出迎へたんですつて、然し男と云ふ男は兵士に徵集されるので皆怖がつて小さくなつてかくれてゐたんですつて、そのフエデラリスタは皆な騎馬で、扮裝は活動でよく見るガウツショそのまゝ中には多數の女……勿論騎馬で……混つてゐました、今の砲兵隊の兵營、その時は政府黨の兵隊は逃げ出してしまつて、兵營はもぬけのからだつたのに陣取つて今もまだそのまゝの、兵營の前の原つぱに火をカン〳〵起して、徵發した牛を屠つてお手前ものゝシユラスコ、かうして三ケ月ほど續いたんですが、市中はまるで火の消へたやう夕方から外出するものは一人もないそれでも軍規はキチンとしてゐた相で、四人の兵士が或る娘にいたづらをしたと云ふので、兵營の前で銃殺されたのを、妾のお父さんはこわいもの見たさで遠くから見物してゐたつて云ひます、今ではやれピクニツクと云へばシユラスコ、お祭があると云へばシユラスコで、すつかり流行兒になつてしまつたものゝ、かうした思ひ出があるんですの……』

二人連れの若者が、フートボールの競技の話に興じながら入つて來て昇に視線を投げながら程近い卓に陣取つてシ、リアを呼ぶ。

『オイ……も一つお代り……』

立ちかけた女に浴びせるやうに、肉叉を下にをいてコツプを乾して云つた昇の頰は燃えてゐた。

＊　＊　＊

＊　＊　＊

門口まで送られた女の手を堅く握つて、二歩三歩進んだ時、トツと起つた二人連の若者の高笑に、ショツクをうけたやうにふり返へると、夕暗に浮き出たやうな白いシ、リアがニツと笑つて手を振つたので、彼は勝ち誇つたやうな氣分で帽子をとつた。

●モンソンだより

一年の計は元旦にありの例に洩れず新年早々本村の篤志家淵清二、村崎豐重兩氏は日に月に著しく增加し行く兒童を見て、其敎育の忽せにすべからざるを感じ、之を有志に圖りしに有志亦大に賛同したるに依り直ちに寄附金の募集に着手し、先づ第一回寄附金一コント四百四十一ミルレース を得て、本村の中央部に敷地及び假校舍を借り受け、去る十一日紀元節の佳日をトして盛大なる開校の式を擧げ十二日より授業を開始したり、而して敎師として瀧本ワカ子婦人其任に就く。

尙近々青年夜學會を組織し以て本村在留者の讀書趣味を養成し品性涵養に勉むるの計劃あり。

學校設置と同時に左の役員選擧せらる。

學務委員兼會計　淵清二
委員　本田榮太郎　中村重太郎
同　本道利八
同　酒井吉四郎
同　渡邊末松
同　本田寛

寄附金額並に芳名は左の如し

一金五十ミル宛　渡邊末松　本道利八　山口三之助　山下水谷兄弟
一金四十ミル宛　本田榮太郎　中村重太郎
一金參十五ミル宛　淵清二　酒井吉四郎　遠山源太郎
一金三十ミル宛　境吉藏　森川卯太郎
一金二十五ミル宛　村崎豐重　西島仁作　本田義平次　本田寛　木村壽一　小田トジユ
一金二十ミル宛　上田豐喜　西山定夫　小田切榮太郎　浦本千三郎　賀久茂　渡邊六治　苅谷政之
一金十五ミル宛　大塚吉太　同長太　大野新三郎　友谷爲男　吉崎重藏　藤塚安平　藤山辰雄　山田喜八　緒方清太　吉村末次郎　野村佐一郎　山本治三郎　神田寅三　田中又雄　村中泉　荒木豐男　吉良松之助　井上勝馬　中島長作　上田作兵衞　隈部豐次　田島二郎　本田安記　田中唯雄
一金十ミル宛　本道五郎八　同志久藏　酒井龜太郎　永松重利　本田德次　伊集守正　林田善太郎　牧田武人　神原儀三郎　角田和一　門馬傳三　葛原浪夫　三島衞三　坂口仁四郎　牧太平三郎　百田末彦　渡邊要治　大塚清藏　井上忠吉　松原勢一　森吉之助　南田蔦雄　植田金藏　宮崎末松　吉良
一金六十六ミル　モンソン青年會
一三十ミル　アグワベルトーザ在留者一同
總計金一コント四百四十一ミルレース也

△高尙で、安くて、たいし—
△御みやげ物には峯月堂の御菓子にかぎる
製造販賣元　峯月堂
聖市コンデ、サルゼイダス五三番
△紅梅饅頭、澁養饅頭
△京鹿の子、青柳餅
△蒸金鍔、蒸羊羹、其他

ソロカバナ線一等地を廉價にて年賦賣却す

拙者所有のサンタマリヤ耕地に於て十アルケーレス以上百アルケーレスのロツテを左記條件にて賣却す

賣買契約成立の時　半額拂込
滿一年後に　六分の一
滿二年後に　六分の一
滿三年後に　六分の一

最後の六分の一拂込の時地券を讓渡す

今回賣出す土地は所有權確實にして土地賣買契約の際一切の書類を一覽に供すべし、土地はソロカバナ線ランシヤリヤ驛より八キロメートルの處に位し、驛よりの道路好良にして常に之が修繕に意を用ゆ、本耕地には既に百アルケーレスの栽培地と製材場とあり、又驛より六キロメートルの處にはバトリモニオを設くべし、氣候溫順、飲料水潤澤善良なり、賣價は一アルケールに五十ミルレースより百ミルレースとす、希望の御方は左記へ御照會ありたし

大正八年一月二十四日　エドワールド、ロスキ

Eng. Eduardo Loschi
Rua do Rosario, No. 12　São Paulo
又は　Ernesto Caleffi
Estação Rancharia,　L. Sorocabana.

土地賣却

豫期した如く Heitor Legrú 驛はノロエステ線に於ける同胞發展の中心となりつゝあるは私共の喜とする所であります。我れがちに押し寄せて來る殖民者の爲に今日のノロエステ沿線に殆んど私共の希望する條件に叶ふ土地を得ることが出來ませんのに、獨り吾がエートル、レグルー驛は極く最近迄土人が居住して居つた爲めに其發展を阻害せられ、天與の富源を有りの儘に殘して置かれたのは恰かも私共日東男子の爲めに神樣が供へてくれた樣なものであります。

今回賣り出す土地は「サンパウロ土地材木殖民會社」の所有地で當殖民地と隣接し地質は所謂、パウダリヨ地帶で、其肥沃なるは如何なる穀類の栽培にも適すことを保證致します。衞生の上から云ふても既に五家族の同胞殖民者があるが今日迄一人の病者無きに徵して明白であります、土地の支拂條件は他に比を見ざる程寬大にして殖民者の便宜を計つてゐます。希望者は百聞一見にしかずと申す通り此絕好の機會を逸することなく、當殖民地の實情調査の上御希望の土地を撰定せられんことを望みます。御照會は總て左記宛に願ひます。

イタコロミー殖民事務所
Escriptorio da Fazenda Itacolomy
Estação Heitor Legrú
Linha Noroeste

◎各國電報

◆ババリー國大統領暗殺さる

ムニッヒ來電に依れば ババリー國大統領クルト、エースチル氏はアルコ、ヴァレー伯に短銃にて狙撃され即死せり、加害者も亦護衛兵の爲に重傷を負ひ生命危篤なりと（アムステルダム發二十一日電）

◆原首相の聲言

原首相は本日議會に於ける質問に對し支那は青島還附を要求するの理由なしと聲言せり（東京發廿二日直電）

◆福島大將薨去

福島安正大將は腦充血にて去る十八日突然薨去せられたり（東京發廿二日直電）

◆ウ井ルソン大統領歸國

ウ井ルソン大統領は本日午前十一時五十三分無事當港に到着せられたり（ボストン發二十四日電）

◆ウ井ルソン大統領暗殺陰謀發覺

紐育探偵局はウ井ルソン大統領がボストン港に到着するに際し暴烈彈を以て暗殺せんと企てたる無政府黨員及びマキシミスタ黨員を捕縛したり本日の當市諸新聞紙はウ井ルソン大統領暗殺陰謀發覺に關し長文の記事を掲載したるが嫌疑者として捕縛せられたる西班牙人十四人は何れも萬國勞働協會員なりといふ（紐育發二十四日電）

◆クレマンソー氏經過頗る良好

刺客の爲めに負傷せるクレマンソー氏は其後經過頗る好良にして來る木曜日の平和會議例會に出席議事を處決し得べしと（巴里發二十五日電）

◎雜報

●大統領公認候補者選定

去る廿五日は大統領公認候補者選定の日にして各州政黨首領出席の上投票したるが開票の結果百三十九票　エピタッシオ、ペソーア四十三票　ルイ、バルボーザにてエピタッシオ、ペソーア氏公認候補者に選定せられたり、因にペソーア氏は上院議員にして伯國平和大使として目下佛國に在る人なり

●ルイ、バルボーザ氏立候補斷念

ルイ、バルボーザ氏は大統領公認候補者選定會に立候補を斷念したる旨通知したり猶同氏は上院議員をも辭職すべしといふ

●ブラスの大火

◇ヂユッタ製布會社大半灰燼となる◇

去る廿二日夜半ブラスなるヂユッタ製布會社に火災起り、急報に接して馳せつけたる消防隊は必死の活動を試みたるも當夜は何分風烈しかりし上に水量不足を告げたる爲め祝融益々猛威を振ひて同建物の大半を焼き盡して午前六時に漸く鎮火したりと因に同會社の損害は約八千コントス、デ、レースなりと云ふ

●宮島博士一行歸聖

ノロエステテ線よりドラードを經てモヂアナ線に轉せられたる宮島博士の一行は昨日午前九時半ルース停車場に無事歸着當地主なる人々の出迎へを受けてホテルに行かれたるが宮島博士、平野學士、北島ドクトル、福川氏何れも大元氣にて滿一ヶ月間各地到る處を巡廻されたる貴い働き振りを日に焼けた顔の色に表はし『アヽ愉快でしたよ』と勞苦を少しも勞苦とせぬ博士の態度は如何にも氣高く人をして敬度の念を增さしめり

●岩手書記官赴任

過般公使館三等書記官兼領事に昇任伯國在勤を命ぜられたる岩手嘉雄氏は來月上旬紐育發のブライアン號にて在リオ帝國公使館へ向け赴任せらるゝ由

◆始末にゆかぬ連中

當市の某氏は所用にてコンキスタ方面に出張せし砌り同地の知己（姓名は判明し居るも預り置く）六名より日本へ送金を依頼されたるが其當時爲替相場の變動甚しかりし故送金の不可を說き一時見合せを勸告せしにも拘らず強いての依頼止むなく右六名の送金總額一コントス九百ミルレースを British South American Bank に於て爲替となしたるに當時の相場は伯貨百ミル對日貨參拾九圓二十一錢なりしかば合計七百四十四圓九十四錢を日本へ送金したるに依頼人等は某氏が不當の利を貪りたるものと速斷し折角厚意よりして多忙中貴重の時間を費して盡力せる某氏に盜名を附し剩さへ某氏を毆るとか警察署へ引渡すとか脅迫的態度を以て態々出聖したる沒分曉漢がある由なるが該銀行に就きて取調べたる處當時の相場は全く一百ミルに付三十九圓二十一錢なりしを知りたる此等の忘恩連は某氏に一言の謝意を表すべきに却つて恩を仇となし歸耕せしとは實にあきれたものと云ふべし。

●早尾氏賜暇歸朝　帝國公使館書記生早尾季鷹氏は賜暇を得て來月中旬の博多丸にて歸朝せらるゝ筈なり

●狩谷支部長歸聖　去る二十二日イグアペ植民地視察より歸聖されたる狩谷移民組合支部長はスツカリ日に焼けて『アヽ宜い所だ自分も事情が許すならイグアペ植民の仲間入がしたい』と云つて居られたり

●日本倶樂部の電話　今度新たに架設せる當地日本倶樂部の電話番號はセントラル五四〇〇なり

◆本紙取次所◆

人のものを平氣で横取りする者あるも爲め本紙購讀者の迷惑一方ならず、之が善後策に就いては本社の大に苦心考究中の處、ノロエステ線アルブケルケリンス驛なる一讀者より同驛の森部洋服店を取次所とせば此弊を一掃する事を得むとの注意に接し、本社は直ちに森部氏に交渉し其快諾を得たれば、次號以後の本紙は同驛管下在留購讀者の分を一纏めにして同店へ送附する事としたり本社は森部氏の厚意に依り大に便宜を得たる事を感謝す

●福柳再び鳳を投倒す

◇大錦の疎忽勝つて角力に黑星頂戴◇

□東京大相撲春場所勝負

◆二日目

十三日の二日目は日曜明けとあり多少人氣不振を例とするにも拘はらず好取組の續出に前日にも增す大入り九段社頭押すな〳〵の盛況現出されたり、重なる勝負結果左の如し

△勝　三杉磯　大汐　大門源氏山　常ノ花　大鳴門岩　千葉ヶ崎　兩國　黑瀨川　九州山　朝汐　宮城山　栃木山　藤の川　清瀨川　福柳　大錦　鳳

▲負

▼踏切りの跡　土俵の砂に明かなりしに惜き敗れとなり鳳に取つては大事の一戰、會稽の恥を雪ぐ可き福柳との復讐戰に入り再び彼れをして名を成さしめ横綱の面目丸潰れとなる、蓋し福柳は鳳に取り所謂苦手ならんか。

▼大汐土俵に倒る

▼東西の勝星勘定　西の花形大汐は二日目力戰して大門岩を投げ出せるも如何なる端みにや急所を打ち、勝ち名乘りを受くる間もなく土俵の上に絕倒せり意外の出來事に　▼塲内大騷ぎ　となり直ちに手當を加へ恢復翌日の出塲差支へ無し、此日東西の星勘定にて東軍の三十三點に對し西軍十三點九點の負け越しとなり猶八日を剩すも西の士氣若干振はざるは惜む可し。

◆耕地便り

イガラババ驛ウニオン　行脚僧

耕地にて

ミナス州ウベラバ驛メランシャ耕地（富岡瀨氏耕地）へ行く積りにて昨日正午カエンデ驛に降りて待てども待てども何れの間遂ひにや乘馬來らず空しく驛に待つ事約三時間不圖も舊知吉瀨氏の迎へに來れるあり、即ち中候

▼大剛栃木山　を對向に廻し異數の出世振を見せたる手腕の程を見はさんと努めし効も無く、角力にされず押し出され清瀨川の無念さは同情に値す、十三日に紅毛流に角道にても魔の日となれるにや此日東西の横綱相次で黑星を頂戴す即ち東の大錦は新進藤の川と組みて勝負には勝てるも遺憾千慮の一失

豫定を急變し福川爲然氏の新居に一泊すべく馬を並べて當耕地に參り申候

當耕地はフランシスコ、マシミヤノジュンケーラ氏の有有地にして人も知る如く聖州第一の製糖工塲雄然として『リオグランデ』の沿岸に聳立し居り從つて砂糖黍植付主にして珈琲手入は從に候、而して耕地はサンゼラルド及びワルヂヤ、アアレーグレの二區に分たれ居り候

當耕地には竹村第三、第四、第五の三回に亘り入耕者あり千辛萬苦を重ね當地に踏み留まりし人及び他耕地より數年前に轉耕し來れる人の中に八田一藤、吉瀨軍平、佐伯熟郎諸氏の如き成功者有之候

組合移民としては前記地區には大正七年一月渡航の沖縄縣人十家族にしてこれが通譯としては吉瀨軍平氏あり後記部落に本年一月入伯の沖縄縣七、福岡縣四、山口縣三、合計十四家族、これが監督指導の任に福川爲然氏擔當せられ居り候

玆に吾人の注意すべきは兎角の噂あり毎夜の様に自働車や馬車で異様の假裝で練り廻つてゐるが眞のカルナヴルは三月の二、三、四の三日間で君の素質も良佳ならんも、寧ろ之れが指導者其當を得たる事を深く信じ愈々目睫の間に迫つて來た爲めに市内は非常の賑合である是も戰後の好景氣が助けてゐるとあれば喜ばしき現象と云ふべきである

●剝燒會が繁昌

當市に新設された日本倶樂部では毎夜部員の集りが多くて大繁昌ださうであるが毎土曜日の晩には役員の發企で剝燒會を開くことゝなり多數の人々卓を圍んで談笑の裡食を共にするは肩も凝らずに交情を温め得て有益なりと云ふ

●人事來往　地方出張中の原口七郎尾比久孟德兩氏は二十二日、嶺昌氏は二十三日何れも歸聖◆瀧澤二三郎氏二十五日ノロエステテ線より出聖◆山根寛一氏二十六日歸植

何れも滿足して早起晩臥大奮闘中に何れも滿足して早起晩臥大奮闘中に申候、これ耕地の狀況良好なる事とは申し乍ら先きには八田氏の如き新入諸君の鑑とすべき成功者あり、後には福川、吉瀨兩氏の如き衷心より移民を世話する温良なる人物の在耕する賜に外ならずと存じ候

數字上の收支計算の如きは他日閑を得て緩々可申述候

只今よりサンパウロ、ミナス兩州境なる『リオグランデ』の鐵道を渡り、デルタ驛より急行列車を利用してゼブー牛吼ゆるてふウベラバ市に到り去るに臨み在耕諸君の健在成功を祈るや切なるもの有之候

●カルナーヴルが近づいた

基督教の中でも新教を奉ずる國ではカルナヴル（謝肉祭）はホンの形式に留まるが舊教を奉する國では仲々盛大に行るので當市の如きも其の下た稽古とでも云ふべきか又は前遊びとでも云ふべきが天氣さへ良ければ殆ど毎夜の様に自働車や馬車で異様の假裝で練り廻つてゐるが眞のカルナヴルは三月の二、三、四の三日間で愈々目睫の間に迫つて來た爲めに市内は非常の賑合である是も戰後の好景氣が助けてゐるとあれば喜ばしき現象と云ふべきである

生徒募集

今回伯人教劊を聘し新學期開始せり入學希望の方は此の際御申込あれ

授業時間（自午前八時 至同十一時）

大正八年一月廿二日

大正小學校主　宮崎信造

精米廣告

日本人諸君の爲めに特別勉强して精白します

又御便利を圖る爲め米穀の依託販賣をも致します

バウルー市　バウリスタ驛前

デシヤウエル精米所

Eduardo Deschauer
Frente da Estação Paulista
Baurú

芳香美味　**竹印醬油**

一瓶一缶七百レース

聖市モッカ街五二六番

大澤商店

竹細工部、醬油釀造部

木藤商會へも本店同樣御愛顧願上候

R. da Mooca 526, S. Paulo

旅館、和洋御料理

月見亭

尚ほ旅宿者の便を計る爲め今回聖市の事情に委しき人を雇ひ入れ買物其他一般の案内手引を致すべく候

聖市コンデ街六九

村野

電話四五五九セントラル

弊店は新式流行形を最も廉價に調製可仕候間何卒御注文の程奉願候

電話（セントラル『四五五九』）を御呼び出し被下度候

田口洋服店

Rua Conde de Sarzedas, 73

▲各種流行服
▲女雜紗服（材料精撰）
▲其他御修理（直段勉强）

旅館

和洋御料理一切

室内に改良を加へ取扱ひ丁寧に可致候間御投宿被下度願上候

聖市コンデ街四九

上地彌藏

郵函一二二五番

電話五七〇一セントラル

23 de Fevereiro de 1919 No. 77

Noticias do Brazil

大正八年二月廿八日　金曜日　第七十七號

長篇講談

奈良平内

第廿一席　阪田の道場にて試合の事

平『イヤ拙者の謝罪りやうが惡かつた、勘辯をして下され、コレ此の通り』と丁寧に詫入つた　△『可けねえ〳〵、蛙の面に水で斯んなシャアシヤアした奴は錢儲けには成らねえ、兄貴止せ』△『然うだな目違ひをしたかな』彼の町奴と稱する惡漢共は互に顔見合せ　○『ちやア恁んな野郎は諦めやうぢやアねえか、逆さにしても鼻血も出ねえ田舍武士此方が惡かつた、ヤイ許してやるから行け平ヤ大きに辱けなうござる』平内は名の通り平氣なものだ、謝罪って置いて五六歩向ふへ行掛ける、折しも年の頃は十三四、振袖姿の若衆が此方から一人の仲間を供に連れてやつて來る、什麽見ても然るべき身分ある人の御子息と見えます、彼の五人連れの奴は今度は此の振袖姿の若衆にドンと衝き當つた、若衆はよろめきながらもヂツと踏み止まり　若『是りやア何をいたす無禮者ッ』とハッタと睨め付けました、平内は後で見て感心をして居る　平『ウムー、年は僅に十二三だが有繋は武士の息子と見えて無禮者と叱る所は恐れ入つた、どうなることか見て居てやらう』と立つて居ると五人の惡漢はカラ〳〵と冷笑ひ　甲『ナ何だ、無禮者だと……此の小童奴が』乙『利いた風な畜生ぢやねえか、これでも喰らへ』と拳を振つてピシリと打つた、ヒラリと體を開いて　若『何を致す、武士に對して無禮を致せば手は見せぬぞ、此の兩刀が眼に入らぬか』丙『篦棒奴餓鬼の癖に大きな事をボン〳〵言やアがる、侍だと、ヘッ二本差が怖けりや燒豆腐を見ても逃げにやア成らねえ、鰻の蒲燒は四本差して居らア』　若『ヤア重ねく〳〵の雜言、己れ斬つて捨てる』と腰を落して刀の柄に手を掛けた、供に立つた仲間は蒼くなつてブル〳〵慄へ　仲『ワヽヽ若旦那どうぞお耐へなさつて下さいまし、對手は破落漢とは申しながら人數が多うございます』若『イヤ〳〵其方は遠くに退いて居れ、某に考へがある』

甲『アハヽヽ、拔くのか、是りやア面白い、オイ皆んな拔くさうだからやつちまへ、疊んでしまへ』乙『合點み　平『エイ……』とばかり力量に任せて投上れば、ブーン……と唸を生じて隅田川を越して本所の中の鄕へ落ちたといふ、眞逆然うでもございますまいが、二三間は向ふに飛んだ　△『オヤ此の畜生、味を遣りやアがるな』と四人が一度に打つて掛るを或は蹴倒し投倒し從横無盡に働く有樣に流石無賴の町奴も膽を潰して仕舞ひ　『ヤーイ、敵はねえ敵はねえ、手剛いぞ逃げろ〳〵、逃げるが勝ちだ……』と周圍に集まつた見物を押分け雲を霞と逃去りました、後姿を見送つた平内は追はうとも致しません　平『アハヽヽ口程もない弱蟲共、是りや飛んだ腕立をいたしたドレ行かうかい』塵打拂つて立去らうとする、多くの見物が　○『エ金兵衛さん好い腕前のお侍だね　金『大したものだ、今の人達だつて相應に腕に覺えもあつたらうに、爰へ來ちやカラキシ子供扱ひ、風體は田舍のお侍のやうだが餘程お出來なさると見える、ごうだい、ボーンと人間を投上げた彼の働きは』▲『さうさ豆藏が鞠を扱ふやうだつた』ワイワイ手を叩かんばかりの大評判、平内は極りが悪いから群衆を押分けて並木の大通りを若衆と仲間が後から追駈けて來た、

若『アー若し鳥渡お待ち下さいまし唯今は誠にお助太刀添けなう存じます、某こそは伊藤伊織と申す若年者苦しからずは御貴殿の御住所御姓名を承はりたう存じまする』と年に似合ぬ鹿爪らしき口上振、平内は莞爾笑つて　平『イヤ是は先刻のお方でござるか、其の御挨拶では痛み入る、某事は此程初めて當江戸表へ入つた者で姓名を申上ぐる程の者でもござらん、また惡漢の押寄せ來んも圖らん、これねば急いで御宅にお歸りなさい』

若『ではござらうが唯今のお働き振りでございます、五人の奴は傍若無人にも平内を目掛けて青痰をカッと吐き掛けた、イヤ怒るまいことか平内阿修羅の如くに立上つて　平『汝ッ人足共、捻金も糞もあるものか、イザ田舍侍の腕前見せて呉れん』と大喝一聲躍り掛ると一人の町奴を引掴み　平『エイ……』とばかり力量に任せて投上れば、ブーン……と唸を生じて隅田川を越して本所の中の鄕へ落ちたといふ、眞逆然うでもございますまいが、二三間は向ふに飛んだ　△『オヤ此の畜生、味を遣りやアがるな』と四人が一度に打つて掛るを或は蹴倒し投倒し從横無盡に働く有樣に流石無賴の町奴も膽を潰して仕舞ひ　『ヤーイ、敵はねえ敵はねえ、手剛いぞ逃げろ〳〵、逃げるが勝ちだ……』と周圍に集まつた見物を押分け雲を霞と逃去りました、後姿を見送つた平内は追はうとも致しません　平『アハヽヽ口程もない弱蟲共、是りや飛んだ腕立をいたしたドレ行かうかい』塵打拂つて立去らうとする、多くの見物が　○『エ金兵衛さん好い腕前のお侍だね　金『大したものだ、今の人達だつて相應に腕に覺えもあつたらうに、爰へ來ちやカラキシ子供扱ひ、風體は田舍のお侍のやうだが餘程お出來なさると見える、ごうだい、ボーンと人間を投上げた彼の働きは』▲『さうさ豆藏が鞠を扱ふやうだつた』ワイワイ手を叩かんばかりの大評判、平内は極りが悪いから群衆を押分けて並木の大通りを若衆と仲間が後から追駈けて來た、

若『アー若し鳥渡お待ち下さいまし唯今は誠にお助太刀添けなう存じます、某こそは伊藤伊織と申す若年者苦しからずは御貴殿の御住所御姓名を承はりたう存じまする』と年に似合ぬ鹿爪らしき口上振、平内は莞爾笑つて　平『イヤ是は先刻のお方でござるか、其の御挨拶では痛み入る、某事は此程初めて當江戸表へ入つた者で姓名を申上ぐる程の者でもござらん、また惡漢の押寄せ來んも圖らん、これねば急いで御宅にお歸りなさい』

平『アハヽヽ、拔くのか、是りやア面白い、オイ皆んな拔くさうだからやつちまへ、疊んでしまへ』乙『合點だッ』四方から今刀を拔いて斬つて掛らんとした、此體を眺めて居りました平内は、もう腕が鳴つて參りました　平『偖々江戸には無茶苦茶な奴があるものだ、此方に衝當つて喧嘩を買はうとしたのが内が外れた爲めに今度は彼の少年に因緣を付けるとは不埒千萬、己れッ下司下郎の分際で往來の邪魔をするとは猪口才至極此儘に捨置けば什麽いふ亂暴をするかも相分らぬ、好し江戸へ乘込んだ初視ひに一つ彼等を驚かしてやらうの最早江戸の勝手を知らないの、遠慮のと用捨する場合ではない』と平内長守はッカ〳〵とそれに進み寄り、

平『ヤイ貴樣達は不埒な奴等だ、自分から衝當つて置いて却つて逆捻に咎め立ていたすとは何事だ、見れば何れの御子息か、未だ前髪立ちの少年に對して無禮の振舞、愚圖々々いたすと手は見せぬぞ』と最前の勢に反して威猛高になつて啖呵り付けたすると若衆の供をして居た仲間は急に力み出し　仲『此のゴロン坊、能くも若樣に對して無禮の事を吐しやアがつたな、サア俺も若樣の加勢をするんだ』と眞鍮卷の木刀を持つて後に退つて身構へました、所は名に負雷門へ入らうとする時に、先刻のふ淺草の駒形、忽ち四邊一面の大騷ワッといふ有樣でございます、火事喧嘩伊勢屋稲荷に犬の糞、其時分の喧嘩と來ちやア江戸の花と唱へられ隨分花々しかつたものでございます五人の奴はカラ〳〵と笑つて、昨日今日の山出し野郎椋鳥奴、俺達を誰だと思つて居やアがる、旗本白柄組のお出入で捻金親分の身内になつて左るものありと噂の高い影辨慶の重藏、遠吠の權太、破鐘の長六に逃足の早藏、内股の勘五郎とは俺達のこ

◆我が『時報』社の編輯室へは、毎日何かと云ふ投書が參りますので、婦人欄に關係のある分は私が拜見してよさそうなものは投書とかと云ふ名をつけ寄書とか、投書家の厚意て之を婦人欄に掲げ、寄書家の厚意を感謝すると共に、貴いお說を味つてゐるのでありますが、沒收箱に這入る投書の中にも、隨分御本人が苦心してお書きになつたものもあつて捨るに捨苦いのも少なくないのであります。

◆先づ一つ二つ例を擧げて見ますれば、伯國へ來て植民地を拓くことは帝國の膨脹だなぞと誤解して兒童の教育をしてゐなさる先生の投書もあれば、日本人の殖民地は皆な日本風にしなければならぬと云つた樣な意味の投書もあります、なるほど、人情から申しますれば、さうもしたいでありませう、また私として決していやな氣持が致しません、併し間違つて長した小供は伯國に永住の運命を持てゐることは、どうして善くないことで、般鑑遠からず獨逸の殖民政策の失敗が其處にあつたのを見ますれば、之は捨ておく譯には參りません

◆一體私共は他の獨立國へ這入つて來て、帝國の膨脹だなぞと云ふことは、夫れ自身が既に間違つてゐることで

婦人欄

●伯國へ嫁入りした私共子

其の上兒童の教育にまで日本國民式の教育を施すならば、屹度伯國の人々から忌み嫌はれて『伯國に調和しない樣な異人種は、居つて貰つても困るから、さつさと本國へ歸つて貰ひませう』と排斥さるゝに違ひありません、さうすれば帝國の膨脹所か、民族の發展も個人の安定も結局築き得すして、復たすご〳〵と生活難の日本へ逆戻りするより外はないのであります。

◆ですから私共は世界の大勢に乘じて海外に渡つた以上は、日本から伯國に嫁入した積りで此の國に染馴み自分の修養も、小供の教育も皆な伯國を本位として、伯國は即ち我が第二の故鄕なりと定めなければならぬと思ひます、但し前號の本紙社說に述べてありました日本人の特質たる美點は、之は恰も金剛石の如く、世界の何れの涯に持ち行くも、萬人の等しく珍重するものでありますから是はどうしても家庭や、學校の補習教育で子々孫々に傳へて行かねばならぬことは勿論でありますが、是と彼とを誤茶交にして、伯國に日本帝國でも模る樣な間違つた考へをもつて不遜な態度に出たり、小供を教育したりしてはならぬのであります、若しもこんな間違つた考へをもつて教育してゐる學校の先生があるならば、其の先生から先きに方法をつけねばならぬのであります、

◆私共は女ですけれども、一旦世界の舞臺に乘出した以上は、もう日本に居つた時の樣な引込み思案の女じはいけません、何處までも一家を雙肩に荷うて立つ丈の覺悟が必要であります、殊に小供の教育に對しては能く小供の將來の立場を考へ、親の得手勝手を全く取去つて、眞に小供の幸福を圖つて遣らねばなりません そして其れには如何しても伯國で成長した小供は伯國に永住の運命を持つもので、また伯國に落ちつくことは其の小供の幸福であり、親の爲めであり、祖國の爲めであるのでありますから私共女と雖も能く此處の道理を了解して、萬々過ちの無い樣にしなければならぬと思ひます。

「イグアペ」植民地

●當植民地は醫師、獸醫、農業技師、測量技手、園藝得業士等常置し植民の保護誘掖上必要なる組織を有す
●當植民地は道路四通八達交通自在なり
●當植民地に於ては新來植民は耕作時期まで日雇又は請負の勞働に從事すことを得
●當植民地には資力乏しき者にても自作農業爲し得る方法あり

「イグアペ」植民地視察者の爲め「サントス」より植民地本部「レヂストロ」に到る道案内
●汽車の「サントス」發は毎週月曜日水曜日（午前九時二十分）土曜日（此日だけ午前七時）にして其「ジュキア」着は午後四時
●此間の貳等運賃は十鈆百レイスなり
●「ジュキア」には停車場近くに小旅店二軒あり。宿料參鈆内外なるが投宿の際取極め置く方宜し。
●翌朝汽船又はガゾリンランシヤにて「ジュキア」を立てば當日「レヂストロ」に到着すべし
●此間運賃參鈆なり

來り理想鄕を作れ

ANTUNES DOS SANTOS & COMP.
AGENTES DAS COMPANHIAS
NIPPON YUSEN KAISHA :: OSAKA SHOSEN KAISHA

大阪商船會社定期船
●はわい丸
一週間以内にブエノス解纜の豫定
リオにて船客搭載日本へ向け出帆

日本郵船會社定期船
●博多丸
一月二十一日神戸出帆
三月十五日サントス着塗定

御用の方は左記の中何れかへ御照會ありたし
伯剌西爾移民組合支部
(Caixa Postal 1082)
Rua Vergueiro 15, S. Paulo.
アンツーネス、ドス、サントス會社
(Caixa Postal 237)
Rua Libero Badaro 93, S. Paulo.